



ヒトにかたせてくれるひと

PAINING YARU



うー因世せでくねる

Onomatopoeia 2005

まえがき

みなさんおはようございます。横井レゴです。
またしても「スカッとゴルフ バンヤ」本です。
ええもうすっかりどっぷりです。
ランクもアマチュアにな
なってしました(ひよえ)

キャディやキャラクター、
システムもいい感じに
充実してきて、本作る方としても
何から手を付けたものか
迷うくらいの勢いなのですが(?)
今回は2月のオンラインイベントで
プレビュー止まりになってしまった
クー本をクリンナップしてみました。

まあ、中身はけっこう
いつも通りなどろがあれですか(?)

たのしく読んでいただければ幸いです。

それではまた後ほど。

文責:横井レゴ

もくじ

+4
5~16
プレゼント
19~24

スリル



あちやー、また
一打差で負けたか

ナイスパット！

よーし、今日は
このくらいで
上がると思うつか！

おつかれさまー

+4



じや、チーム戦で
一汗かいた後は
クーちゃん個人対戦と
いきますか！

よろしくー

服：着替えちゃダメ？
バンカーショツトとか
してるし、汚れ…

そ、う、そ、う、
気、に、し、な、い、

いいのいいの！

よろしく！



あれー、なにかここ
シミになつてるな

おしつこ
もらしたの?
クーは子供だなあ

うわ、指一本で
きつきつた

どんどんあふれて
くるんだけど

うああつ

おもらしじやなきや
何だろ?

ち、ちがい：
おもらしなんか

ちょ、いや…

あつ

しゅ

はあ

はあ

スリ

アリ

はあ

ハリ

はあ

はあ

ハリ

ハリ

はあ



俺ランクはルーキーだけど
おまえらよりバンヤのことは
よく知つてからさ

ほらくーちゃん
手の握りが甘く
なつてるよ

260yのバーで
エース決めちゃうん
だもんなん

はー、俺なんか
トマバツクも
おぼつかないのに

クーちゃん
10yのバットも
外しちやうかもって
かんじだしなあ

ま、そこが初々しくて
可愛いんじゃないの！

くあーっ、
余裕だねえ！

ま、それぐらい鍛えてないと
初心者のクーちゃんには
かたせてあげらんないか





よーし、俺も膣内に
出しちやうぞ、
ほつ、はつ、は！

うああ～あ…

お、クーちゃんいままで
かなりイツちやつた
みたいだね

膣内射精したそばから
ふき出でてきてる

けどこれも
クーちゃんのため
だからね

ひやあん
♡♡♡

は

はあ

んあ

あああ





くあー、フェラの時から
我慢してたから、
すぐ射精てくるわ…

射精しきるまで
もうちよつと、
かるくかきまわさせてね

ふあ、あ、
ああ…

ふううう…

ふあ…

ふう、たっぷり中出し
ごちそまさま！

さて、それじやメダル稼ぎに
大会のエントリーでも
しくつかな

あ、おれもおれも！

いいよなー、お前ら
当たり前のように
メダル取れて：

没ラフやらくがきなど

漫画に使えなかったラフ絵かけっこう
残っているのでここらでちょいとリサイクル(´ワ`)

クーは描き慣れるまでに時間がかかるって
(というか、今も慣れてない) 描きかけのものが
けっこう出たんですね。つり目口りおそるべし。

体つきがどうにも
安定しないなあ… ×(¬Д¬)

口口がきてからのパンヤ

クーの陰にかくれてひっそりと
実装された感のある口口。
能力もスピン+1カーブ+1と微妙な上に
クライアントを落とすバグを手土産に
やってきたせいで一部から
不評を買ったりもしましたが、
ウチではレベル4まで育てるべく(ペんぎん)
トコトコと使ってます。

まあビビンもポンタもティッキーも
レベル4までいってしまってるので(ペんぎん)
そんなにじんどいことでもないとは
おもいますが、せめてコントロール+1が
ついててくれればなあと
思うことしきりです…

てか、口口は頭の羽根っぽいのがよくわからん(ペんぎん)

「ほら、早く！着替えさせてくれるんでしょ？」
そういって彼女は私を個室へ誘い込む。

新しく買ってあげた衣装が、よっぽどお気に入りのようだ。

「今度の大会はチームでやるんだから、
衣装も出来るだけおそろいの方が
いいもんね！ね、おじさん♡」

…俺はこれでもまだ、20代なのだが—

ひとまわり歳が離れてはいるが——
当然俺も、それを察して

「きれいに着せてくんないきや、怒っちゃうよ」
表向きは衣装のことを話しているが、
彼女の興味は別のところにあるようだ

「あ…そこも…脱がす…の？」



悪戯をはじめる

「あ…やつ」

「あん♡」



「ん…もう、いやらしい手つき…」
そういういながらも、甘えたような顔つきでこちらを見ている。
悪戯だけじゃ足りなそうな表情だ。



手を止めて優しく椅子に座らせると
「ね、もっとさわって」と、
自分から指で秘所を見せつけてくる。

「今着替えたら、新しい服汚しちゃいそうだから…ね？」

「んあっ…あ♡ああっ」
「はああ…はあ」

執拗に愛撫を続いているうちに、
恥穴がやわらかく開き出す。
すぐにでも挿入れてしまいたいが、
ゆっくりと時間をかけて、穴がほぐれるのを待つ。

そうしているうちに彼女が囁きかけてきた。
「ふあ…さわるだけじゃ、足んないよう…
おじさん…んあつ、あ♡ああ♡♡はやくう…
クーのおあな、おじさんでの一杯にして…♡」

その言葉を受け入れるのに、時間はかからなかった。

「くああっ♡んあ♡んあん♡」
彼女の鳴き声が、水気を含んだ
肉のぶつかる音とともに部屋中に響く。

それでも構わず突き続ける。

「はう…あ♡」
「ああん…は♡あ♡ああっ♡」
あれだけほぐしたにも関わらず、
まだたっぷりの抵抗感が
穴から感じ取れた。

「はん…あ♡」
「くうああ♡♡♡♡」

「は……は……なかもそともドロドロになつらやつた…♡ふあ♡」

「ね、もいつかい♡ね、もういつかい…」

男の生理を無視して、艶声で更なる快感を要求していく。
服のことなどすっかり忘れてしまっているようだ。

萎えかけた陰茎をもういちど彼女に挿込むと
『くあ…んっ♡♡♡』
待ってましたとばかりに締め付けてきた。

射精したばかりの陰茎が、彼女の膣内でまた大きくなる
「くううん…♡だから、おじさん大好き…♡」

…俺はこれでもまだ、20代なのだが――

あとがき

まずはこの本をここまで読み進めて下さり有難うございます。

前回のクーベルブリューからふた月ちょっとあったのですが、
その間に近所なんですけど引っ越しをしました。
不満や問題が合ったわけでもないのですが、
なんといえばいいのかこう「居心地が良すぎた」かなあという感じで、
だらけたわけでは…いや、だらけたのかなあ。
仕事も滞ることが多くなってしまってたし。
怠惰な空気を入れ替えようと思ったのですよ。多分（多分？）

まあ、だからといって転居した先が殺伐とした
修羅場というわけでもないんですけどね(;・∀・)

で、どっぷり漬かっているパンヤは
なんかまた新キャラクターと
新コースが追加間近とのことで、
遊ぶ方も描く方ももうしばらく
懲りずにどかどかやってしまう気がします。
新キャラのアリンやロロも
ちゃんとした漫画を描きたいし、
ティッキーもまた描いてみたいし
ふたなりじゃないピピンも(ﾟロﾟ)
あらためて、はい。

その前にやらなきゃいけないことがいろいろ
ある気もするんですけどね(´ワ`)
いろいろ頑張ろう。

「クーにかたせてくれるひと」は、ここまでとなります。
それでは、また次回の配本にて。





誌名：クーにかたせてくれるひと
発行元：オノマトピア
発行者：坂井喜紀 (PN:横井レゴ)
発行元住所：〒176-0023
東京都練馬区中村北4-2-3-303

発行日：2005年04月24日

PANGYA!

ケーキにかたせてくれるひと

